和紙の可能性

要旨

和紙を使った商品が世の中にいくつも存在する中、自分たちの作品を通して和紙を広めるにはどうしたらよいかを考えた。特に新規性に注目し、私たちは「世の中にないモノを」をコンセプトに活動を始めた。

1、はじめに

テーマは、和紙が主に伝統工芸品として扱われている中、和紙を少しでも日常生活に利用したい思いと、和紙にはまだまだもっと多くの他のことに使える”可能性”があるはずという期待から決めた。他の多くのことに使えるという考えから、和紙を使った作品の候補をいくつも考え、話し合った結果、”色変わり時計”を作ろうという案に至った。

2、発案過程

世の中にないものをつくるために、まず和紙で作りたいものをいくつか考案し列挙した。そして、以下の候補を新規性、実現性、将来性の３つの観点から考え、それぞれに点数をつけた。
[１点：優れていない　２点：どちらともいえない　３点：優れている]

→観点 ↓候補	新規性	実現性	将来性	計
アクセサリー	1	3	2	6
ナンバープレート	3	1	3	7
造花のランプ	3	1	2	6
座椅子	3	1	1	5
眼鏡	1	2	3	6
便座カバー	3	2	1	6
色変わり時計	3	3	3	9

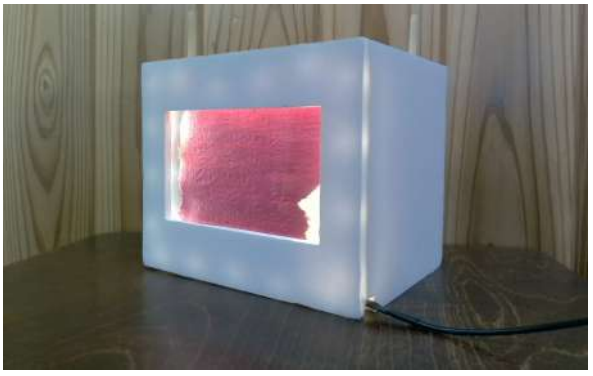
3、商品案

[商品名]

色変わり時計　わく

[わくの由来]

「わく」という名前には以下の４つの意味を込めた。
・和紙とクロック（時計）の頭文字を合わせたもの
・コンセプト「世の中にないものを」より
「枠(わく)」にとらわれない



・時計の「枠(わく)」の中で和紙が移り変わる
・「ワクワク」するものに

[商品仕様]
時間帯にあった４色の和紙のロールが時計の背景で回転する
[アピールポイント]
数字だけでなく色の変化でも時間を感じられる
空の色に合わせた和紙

4、山次製紙所様の意見
「世の中にないモノ」として、和紙が回転する仕組みが評価された。時計にこだわらず、回転する仕組みをなにか他のものにも応用していくと良いのではないか、というご意見もあった。また、わたしたちが世の中にないものを考える理由についてもっと追求していくと、更に良いものを作り上げられるというアドバイスを得た。

5、考察
本来は手動ではなく自動で回したい。回す起点となるところをモーターに置き換えると自動で回るのではと考えている。また、ガラスから見える色を一色にしたかったが、ロールの長さが足りず一度に２、３色見える時があるため、軸を増やしてロールをより長くすることができれば可能だと思う。今回の研究では、サイズが合わないことや、電池交換時の不便さの面から時計を入れることができなかった。私たちは乾電池式の時計を入れるつもりだったが、電池交換が不要なソーラー時計を入れると不便さが無くなると考える。今回は色変わり時計を作るだけだったため、ここからどう広めていくかについても考える必要がある。

6、今後の課題
私達は「世の中にないモノを」をコンセプトに商品を考えたが、和紙を使った商品は既に多くあり、商品を作るだけでは越前和紙の魅力を知ってもらえないと感じた。伝統工芸品である和紙を身近なものとして次世代に残していくには、作った商品の宣伝にも力を入れていかなければならない。